

組合員活動を通じた社会との関わり

有地 淑羽

京都生活協同組合 組合員



龍馬館で調理する有地淑羽氏

私が生協で組合員活動を始めたのは廃油石鹸を作っていた頃ですから、ずいぶん前になります。溝にボウフラが沢山いたので、子どもが刺されてもと思い、殺虫材をまいていたら、タバコ屋のおじさんに「それが川に流れて下流の人の飲み水になるんやで」と言われて、なるほどと環境の事を考えるようになりました。

石鹸から原発、核兵器、「青い空は青いままで子どもに伝えたい」と思い、活動しているだけなのですが、地球温暖化に海洋プラスチック問題、解決するどころかどんどん忙しくなるばかりです。しかも、私たち消費者が被害者でもあり、加害者なのですますます複雑です。

しかし、先を心配するばかりでは暗くなってしまうので、心がワクワクすることをやることにしています。政府を相手に、一人で「核兵器反対」と言っても遠い感じですが、小道具を作って生協の仲間とピースパレードに参加すると、夕食の準備の時間には元気になって帰宅できました。“その時”はいつのことになるかわかりませんでしたが、続けていると核兵器はちゃんと違法の兵器になりました。被爆者の山口仙二さんに「運動は波のようだ。大きな波が来てもさっと引いていく。けれどまた波はいつか来る。」と言われたことを心に置いて、世間の反応が厳しい時にも、いつか波は来ると運動を続けることにしています。

組合員活動は、社会を良くしたいという気持ちに3人の共感と協力が集まれば始められます。2016年にアレルギーのある孫と外食がしたいと思い、「アレルギーのある子もない子も安心して食事ができるカフェを作りませんか」とチラシを作り、スタッフ募集の記事を書いて、生協のニュースに掲載してもらおうと素敵な仲間が集まりました。栄養士のばーば、看護婦さん、カメラマンにメーカーの営業をしていた人、多彩なママ達とばーばが集まり「ばーばの手」ができました。

「カフェをしたい」とアレルギーの親子を支援しているNPOに相談したら、まずはアレルギーの勉強からと、講師の紹介と補助金のもらい方を指導されました。アレルギーの

勉強をしたり料理教室をしたり、レシピをまとめた本も出しました。しかしやってみると子連れのスタッフや参加者の託児の費用は大きく、またアレルギーの専門医や料理の先生の謝金や旅費にはそれなりにかかり、参加費 1000 円と託児費 500 円をとって、生協の援助をもらっても大きな赤字になります。

会計の人は重要です。計画段階から計算して赤字になりそうなものは警告してくれます。営業をしていたママも頼りになります。ママたちの指示で私は講師料の減額をお願いしたり、行政やいろんな所に相談して資金繰りをしてから開催するので、黒字決算でやりたい活動を続けることができました。援助をもらうと説明や報告書も必要になり、市役所や子育て支援の方に私たちの活動を知ってもらうことにもなりました。

5 年が経ち、最初に託児されていたこどもたちは今年、小学生になりました。昨年の秋には市の給食の担当者を招いて勉強会をして、給食への不安を解消しました。5 年の間に多くのメンバーが妊娠して出産して、子ども連れの会議の様子は変わりませんが、コロナで集まることが出来なくなりました。

昨年の春には畑を借りました。夏には収穫祭と京都生協で実現した、アレルギー対応の地藏盆の菓子セットを配りました。冬には同じように活動ができない大学生にサンタさんになってもらい、「クリスマスエール交換プロジェクト」として、往復はがきで子どもと学生サンタのお手紙交換をしました。SNS で募集の広報をしてもらったら、今後も「ばーばの手」の情報が欲しいとメールアドレスを書いてくださった方が多数あり、会員を広げるきっかけになりました。

2 月に計画していた料理教室はやめて、オンラインで「こどもの食事の悩み相談会」をしました。コロナの感染不安のなか、家で子どもと過ごす時間の増えたママ達の、深刻な悩みに向き合う時間になりました。

目指したものは「アレルギーのある子もない子も安心して暮らせるように」です。いろんなところにつながる素敵なフレーズだったように思います。

当初に集まったママ達は仕事に戻ったり、子連れママの音楽グループを作ったり、自分たちのやりたい社会活動を始めました。栄養士のばーばは除去する食材を伝えておけば、採れたてのお野菜で美味しいランチを用意してくれます。フードバンクともつながりました。私はちょっと立ち止まっていろいろ考えています。

生協の組合員活動を通して私は多くの人に出会うことができました。被爆者をはじめ環境や平和の運動をこつこつされている方、素敵な才能を持った若いママにも出会えました。困ったときに助けたり助けられたりする友人と家族にも支えられています。「青いきれいな地球をこどもらに伝えたい」そう思って活動を始めて、だれかのためと頑張ってきたと

思っていたけれど、実は自分のためだったのかしらと思います。

こんな生協の組合員活動に新人の職員さんも、何かの形で関わってくれたら、と思っています。配達で回る地域にはさまざまな人が暮らし、多様な問題があります。社会を見つめる目とそこで暮らす人に寄り添いながら、自分を高めていってもらえたら素敵だなと思います。新人の理事さんには、組合員活動に経費の視点も入れてもらえると、また組合員活動が社会とつながる、新しい糸口が広がるのではないかと考えています。

「誰もが安心して暮らせるように」 社会を良くしたいと思う志を応援する場、人の成長を応援する場が生協の組合員活動だと思います。みんなで笑顔で楽しみましょう。